

前略 失礼致します。

「文芸春秋」新年号掲載の総領事のご意見を読ませていただきました。

日中(中日と書くべきかもしれませんが)友好を願うひとりとして良いご意見ご指摘であったと思い、感想を記させていただきます。

最初に日本国内の反中の空気とそれを煽るメディアへの憂慮を示されました。まさに日中友好を阻む最大の問題です。

この空気の底には日本の人々に自国の停滞感とそれに対比して成長する中国への羨望と恐怖があると思います。

しかしこのような国なり地域間での対比は世界史をみればごく普通に起こることです。そしてそれは一気に消えるものではなく年月とともに人々がそれに慣れ、次第に消滅していくものだと思います。

問題はこの消滅を早めるのではなく逆に人々の不安を掻き立てそれを煽る商業メディアの存在です。

私は現在90歳ですがメディアに煽られるまま人々はそれに心を奪われて日中戦争・第二次大戦へ入っていった当時の日本社会の記憶があります。

「言論の自由」の名のもとに商業メディアあるいは現在では悪質なネット上の発言が民主主義と不可分とされていることが基本的な問題といえます。

長文になってしまうのでこれ以上触れませんがご指摘のとおりですし、お目に触れたと思うのですが同じ文春新年号に掲載の「民意亡国論」(佐伯啓思)も同じ趣旨にたった知識人の良心というべきものと思います。

あと内政干渉、尖閣問題についても触れておられました。
内政への不干渉は国家を単位として成立している現在の人類社会

の原則です。それを無視することは世界秩序の崩壊を招くと私は
思います。

また尖閣問題というか両国の間に問題が生じた時はその原点に戻
って考えるべきだと思います。現在の両国関係の基本は 1972
年に成立した日中平和宣言にあります。当時の経緯も含めてこの全
文を両国が確認し未確認の事項があればあらためて話しあう姿勢が
大切であると私は考えます。

このようにご意見を契機に日本の現状を見ると日中関係は改善の
方向にはあると思いますが道のりは長いものに見えます。

ただ日本人のひとりとして韓国との関係を見ると政府間の関係は悪
くても日本社会の対韓国感情は両国の文化交流の深まりにより好ま
しい方向に向かっていると感じています。2000年代前後から多
くの韓国ドラマが日本のテレビで人気となり映画や音楽などでのい
わゆる韓流スターの人気は高まる一方、加えて韓国の経済発展を受
けて日本への観光客もコロナ以前では増加していました。これらを通
し日本社会の対韓国感情が好転していると感じています。

そして私は日中関係においても同じことがいえると信じています。
経済関係の深化に伴い人の交流が増加した残念なことにコロナの
制約により中断したものの中国からの観光客は激増していました。
テレビの画面に中国社会の表情が映ることも増え、中国映画といえ
ば昔は香港映画のイメージが強かったのですが本来の作品が見られ
るようになり中国現代文学も書店に並ぶようになりました。

ちなみに私は映画では「帰れない二人」「春江水暖」を見て繁栄の
道を辿りつつも私たちと同じような悩みを抱えつつ喜びや悲しみと
ともに日々を送る現代中国の人たちに共感しました。書店でみかけ
る「三体」はジャンルは違うものの読んでみたい本のひとつです。

いわゆるポップカルチャーという分野でも中国では新しいもの、魅
力あるものが次々と生まれていると思います。

かつて第二次大戦の敗戦後、アメリカのこういった文化が日本に一気に入り社会の親米感情が高まりました。韓国については先に記したとおりです。

中国については本来、三国志や西遊記は日本人の親しんできたものですし、李白や杜甫の詩や王羲之の書は日本人の敬愛するところです。なによりも共通に近い文字の使用など日本社会の根底には中国に結びつく多くのものがあります。近世において新たに加わるものが乏しくなったもののまさに現代に至り国の興隆に伴い文化の発信力も一気に高まっていると思います。

人々の人情にふれあう交流が高まって欲しいと私は思います。中国の皆さんの努力によりそういった交流が一段と深まることそれにより日本社会の反中感情が消滅していくことを私は期待しています。そしてそのための努力は本来日本社会自体がおこなうべきことであることを私たちは忘れてはならないと思っています。

最後に文春紙面によれば総領事は岸和田市民との交流をされているとのこと。まさにその意味の実践をされていることに感謝します。

駄文を長く連ねたことをあらためてお詫び致します。

草々

中華人民共和國

大阪総領事 薛劍様

令和4年1月10日
佐橋 頌